

## 第 12 回 長野市中心市街地活性化基本計画評価専門委員会 議事録

日時 平成 23 年 11 月 22 日(火)

午前 10 時から

場所 第一庁舎 8 階 第二委員会室

### 【出席者】

	氏 名
委員 (4名)	市川浩一郎委員、金澤玲子委員、越原照夫委員、渡辺晃司委員、 (欠席:樋口敦子委員、石川利江委員、高木直樹委員)
事務局 (5名)	原田都市整備部長、轟まちづくり推進課長、 小田切中心市街地活性化対策室長、小林係長、長谷川主査

#### 1. 開会

#### 2. 都市整備部長あいさつ

#### 3. 委員長あいさつ

#### 4. 議事

#### (1) 数値目標の達成状況について

<資料1> (説明者:事務局)

##### (委員)

- ・ 住みたくなるまちの居住人口の変動について流入と流出の人数はわかるか

##### (事務局)

- ・ 中心市街地の 36 町字中活エリアに限っての数値はない。第一地区から第五地区であれば前年度比で社会動態、自然動態ともにマイナス
- ・ 目標値を下回る要因は、計画されていた民間マンションの建設が、リーマンショック後、一気に中止、或いは延期したことと考える。
- ・ 現在、延期になったマンションは建設が再開されている。

##### (委員)

- ・ マンションが出来上がった時、若い人が入るのか、年寄りが入るのか。

##### (事務局)

- ・ 最近できたマンションがある第二地区では、生産年齢(25 歳～64 歳)と言われる人口がちょっと増えているが、他の地区は、どちらかと言うと高齢者(65 歳以上)の方が増えている。
- ・ 自然動態は全地区マイナスである。

##### (委員)

- ・ 中心市街地にお年寄りが集まってくる傾向にある。雪かきやヒートショックみたいなものがないのと、医療機関が近いことが要因。また、車の運転ができなくなると、日常生活には非常に便利施設が近い。生活弱者になるということかもしれない。

## (2) 市民アンケートについて

＜資料2＞（説明者：事務局）

（委員）

- ・ 第一から第五地区の数が少ないので、外から見たアンケート結果となっている。
- ・ 集計結果として、居住エリアが、中活エリア外が86%であるので、逆に、外の人がどう思っているのかが分かりやすい。
- ・ 特に「住みたくなる」については、第一から第五地区の人たちがどう思っているのかももう少し調べてほしい。

## (3) 次期計画について

＜資料3＞（説明者：事務局）

（委員）

- ・ 新規事業の「街角に音楽がある街づくり事業」の内容は？中央通りや北石堂、県町などに長野市にゆかりのある童謡・唱歌がたくさんある。そういう歴史や文化を発信していくことも入れて欲しい。
- ・ セントラルスクウェアに「緑豊かな公園」とあるが、中心市街地の人がないところに緑や公園を造る意味があるのか？集積の中に公園があるのは必要なことであるが、更地や平置き駐車場が増えているのに必要か？
- ・ 後町小の後活用については、長野県短期大学の4年制化が決定していない中で、言い回しをもう少し気をつけたほうがいいのではないか。

（事務局）

- ・ 「街角に音楽がある街づくり事業」は、今年度は、長野駅のコンコースでコンサートなどを開催しているが、中活基本計画に位置づけ、中心市街地のまちなか（トイゴ広場や中央通り沿いなど）で、実施していく予定。文化の発信等については、担当課に伝える。
- ・ 空き地や平置き駐車場と広場、公園とは別の話である。公園の整備によって、たとえば「イベント広場」など整備した時に、人が集まり、また、居住人口が増えるという波及効果が生まれてくる。平成16年に具現化計画を策定している。時間も経っているので、こういった過去の検討も含めて、市民の意見を聞きながら整備していきたい。
- ・ 26年度末の新幹線の金沢延伸や次期善光寺御開帳に向けて、主要事業が進んでいる。後町小跡地活用及びセントラルスクウェア活用事業の2つの地区については、非常に貴重な資源であるので何とかしたいという強い意味を込め二期計画に位置付けている。

（委員）

- ・ 後町小については、今まで自主的に検討している団体がある。そういう皆さんが、いろいろ意見を出しているが、過去の検討結果に縛られず、より大きな長期的視野で「中心市街地の活性化に役立つ」という観点から考えるべき。中心市街地の全体のデザインとして「大学」というのは非常にいい。
- ・ 直接的な表現を避け、「学生が集まれば賑わい創出になる。」という意味の大学誘致という表現ならば問題ないのでは。

- ・ 後町小は学校として非常に古い歴史を持っているので、地域の皆さんも同じ言葉ならば「教育施設」というところでまとめればいいのでは。
- ・ 長野駅東口のバス待機場整備事業と善光寺口の顔づくり事業は連携しているのか？バス停が、西口と東口とバラバラに停まっている印象がある。全体の公共交通のアクセスをどうしたいのかあまり見えてこない。

#### (事務局)

- ・ 後町小の跡地活用については、表現を工夫していきたい。
- ・ 長野駅については、整備計画委員会を作り、配置案を検討している。西と東の交通体系についてはある程度、棲み分けをしている。基本的に、広域アクセスの拠点が東口、地域アクセスの拠点が西口である。全てがきちんと棲み分けできていないが、主に、高速バスや観光バスの発着拠点を東口に、地域の路線バスを西口にとしている。

#### (委員)

- ・ 善光寺口の顔づくり事業だが、新駅ビルの内容等はいつごろ公表されるのか。
- ・ 新駅ビルの商業床の規模や商業の形態が「駅なか」（改札口の中）かどうかわかるか。商工会議所でも話題になっている。
- ・ 大宮駅ようになってしまうと、大変なことになるので…

#### (事務局)

- ・ JR では建物の基本設計をしているが、内容については聞いていない。広場等のデザインについては年内に検討委員会を開き市長に報告されることになっている。
- ・ 商業の形態としては、現在と大きく変わらないと思う。現在のテリアが少し立派になるくらいと想像いただければいいのではないかと。長野大通り向かいのウェストプラザとペデでつながるため、「駅なか」ではない。

#### (委員)

- ・ 数値目標について、歩行者通行量の指標を9月に変えた理由は？
- ・ 居住人口の目標値が高すぎるのではないかと。%でみると1,300人くらい増加しなければならないのではないかと。
- ・ 空き店舗数については、目標数値としては非常にシビアである。各商店会の単会毎の集計はできないか。また、駅前などは空き店舗数は少ないかもしれないが、まちづくりという観点から見たときに、居酒屋ばかりで長野の顔として、ちょっとずれている気がする。

#### (事務局)

- ・ 通行量については、7月の第3金曜の商工会議所等で実施している通行量調査の数値を使ってきたが、調査方法等の見直しを検討しており、今後の数値の取り方が変わってしまう可能性もあるため、現在サブ調査として市で行っている通行量調査をメインとし、7月の調査をサブ調査としたい。
- ・ 内閣府からは過去のデータ実績を求められている。9月の第1金曜日が7月の第3金曜日しかデー

タがないため、選択肢はどちらかになってしまう。

- ・ 居住人口については、人口減少分も想定し、なおかつ、現時点で確実に建設されるマンションについてのみ、積算している。二期計画期間中にトータルで約200人程度の増加を見込む計算となる。一期計画よりは、非常にシビアに積算している。
- ・ 空き店舗については、中央通り沿いと権堂アーケード沿いが対象であるため、商店会毎の空き店舗数とまではいかないが、ブロックに分け集計しているので資料提供は可能だと思う。

#### (委員)

- ・ 生涯学習センターの利用者数で、H21年からH22年に下がっている理由は？
- ・ 生涯学習センターは飲食不可であるが、そのあたりの方針変更とはないのか？もんぜんぶら座では基本OKである。施設管理の面からも特に膨大な費用がかかるわけではなく、そんなに大変なことではないと思うのだが。

#### (事務局)

- ・ H21年は御開帳の年であったので、春先にそれらのイベントがあったことと共通商品券の発売会場をして利用したため、数値があがっていると思われる。H23年は、H22年並に推移している。
- ・ 飲食の件については、以前、全くNGだったがその後、蓋付きのペットボトル等はOKになっている。利用者の利便性向上について、委員会を立ち上げ検討しているので、食事の件についても担当課に伝えておく。

#### (4)その他 フォローアップについて

##### (事務局)

- ・ 一期計画のフォローアップについて、国から指示があり次第進め、お知らせする。

5. 事務連絡

6. 閉会